

2016 年熊本地震から首都圏の住民が学ぶこと —建築構造の専門家と市民との対話—

2016 年 4 月に発生した熊本地震では、益城町で木造を中心とする建物が多数倒壊し、熊本市内でも一部の高層マンションで大きな被害が発生しました。役所等の公共施設も被害を受け、住民の被災後の生活に大きな影響を与えました。首都圏においても、近い将来発生が予測される南海トラフや首都直下での巨大地震で、より深刻な建物被害が懸念されております。熊本地震で実際に見られた建物被害を通じて、首都圏の住民が学ぶべき点は多いかと思いますが、専門家から話を聞く機会は多くはないかと思えます。

そこで、本シンポジウムでは、木造、RC 造を専門とする建築構造のプロをお呼びして、2016 年熊本地震での被害調査を通じ、建物被害の特徴やそこから学ぶべきこと、チェックポイントなどを分かりやすく解説していただきます。これを受け、『建築構造の専門家と市民との対話』として、一般の皆様、行政、企業の方からの質疑応答、ディスカッションを進めていきます。今回の地震から首都圏の住民が教訓とすべき点、学ぶべき点を整理し、専門家と一般市民との相互理解を深めていきたいと思えます。

主 催 一般社団法人日本建築学会 災害委員会（市民講座 WG）

日 時 2017 年 2 月 2 日（木）13:00～15:10

会 場 震災対策技術展・パシフィコ横浜・アネックスホール J 会場（206 会議室）

（横浜市西区みなとみらい 1-1-1） <http://www.pacifico.co.jp/visitor/accessmap.html>

プログラム（敬称略）

- (1) 挨拶（5分） 壁谷澤寿海（東京大学地震研究所、災害委員会委員長）
- (2) 基調講演 —2016 年熊本地震の建物被害—（各 40 分）
 - 木造の専門家として 河合 直人（工学院大学）
 - 鉄筋コンクリート造の専門家として 齊藤 大樹（豊橋技術科学大学）
- 準備・休憩（10 分）—
- (3) 建築構造の専門家と市民との対話（30 分）
 - パネリスト 河合 直人（前出）、齊藤 大樹（前出）、村上 正浩（工学院大学）
 - コーディネーター 永野 正行（東京理科大学、市民講座 WG 主査）
- (4) まとめ（5分） 永野 正行（前出）

司会：村上 正浩（前出）

記録：木村 和貴（セコム株）

参加費 無料（資料代 1,000 円）

定 員 180 名（申込み先着順）

申込方法 震災対策技術展 HP「セミナー情報」からお申し込みください。

<https://www.shinsaexpo.com/yokohama/semi-form/>

震災対策技術展 HP <http://www.shinsaexpo.com/yokohama/>

問合せ 日本建築学会事務局 小野寺篤 onodera@aij.or.jp TEL03-3456-2051